

東京医師アカデミー クリニカルフェロー

眼科手術専門医コース 募集要項

1) 応募資格	平成31年4月時点で5年以上の医歴があり、以下のすべての要件を満たしている方 ①日本眼科学会専門医制度における研修プログラムで後期研修を3年間以上修了し、今後眼科専門医資格取得を予定している者 ②基本的眼科診療、各種レーザー治療、外眼部処置ができること ③医療スタッフ、患者とその家族に対し、円滑なコミュニケーションを行う能力を有すること
2) 募集人員	1名程度
3) 所属先	東京都立駒込病院 眼科
4) 研修期間	2年間
5) 選考日	平成30年10月26日(金)(予定)
6) 選考会場	応募者に直接連絡いたします。
7) 選考方法	個別面接(20分程度)、口頭試問(20分程度)
8) 合否連絡	選考後3週間以内に合否をご本人にご連絡いたします(合格通知後1週間以内に誓約書の提出をお願いいたします)。
9) 応募方法 提出書類	以下のものを申込期限までに下記 11)の申込先に郵送すること ① 応募用紙兼履歴書 ② 医師免許証の写し ③ 認定医・専門医等の資格証明書の写し ④ 推薦状2通 ⑤ 日本眼科学会会員証明書の写し ※提出いただいた書類はご返却できませんので予めご了承下さい。
10) 申込期限	平成30年10月5日(金)必着
11) 申込先及び 問合せ先	〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一本庁舎24階中央 病院経営本部経営企画部職員課医師アカデミー担当 (電話)03-5320-5861
12) コース内容 に関する 問合せ先	川口 龍史 (東京都立駒込病院 眼科責任医長) (電話)03-3823-2101(代表)
13) 備考	選考日当日は、医師免許証の原本を持参すること。

眼科手術専門医コース

主たる研修病院 (所属病院)	がん・感染症センター東京都立 駒込病院	
連携して研修する病院・施設(予定)	東京医科歯科大学、東京都立大塚病院、東京都立多摩総合医療センター	
研修時に必要とする知識・技量 (応募資格)	平成31年4月時点で5年以上の医歴があり、以下のすべての要件を満たしている方 ①日本眼科学会専門医制度における研修プログラムで後期研修を3年間以上修了し、今後眼科専門医資格取得を予定している者 ②基本的眼科診療、各種レーザー治療、外眼部処置ができること ③医療スタッフ、患者とその家族に対し、円滑なコミュニケーションを行う能力を有すること	
コース 責任者	氏名(所属)	川口 龍史 (東京都立駒込病院 眼科)
	資格名	日本眼科学会専門医・指導医 日本眼科学会水晶体嚢拡張リング認定医 日本眼科学会白内障手術併用眼内ドレーン認定医
	専門分野	白内障手術、網膜硝子体手術、眼感染症、ぶどう膜炎
臨床指導体制	<ul style="list-style-type: none"> 日本眼科学会専門医による指導体制のもと、白内障、網膜硝子体、眼瞼、涙道手術等、幅広い領域の眼科手術について指導する カンファレンスでは術式のプランニングについて議論し、起こり得る合併症と対応法、術後の経過観察のポイントについて指導する 手術執刀時の実践的な指導に加え、術後手術動画を供覧し、手技の詳細、場面における判断等について、具体的な指導を行う 臨床研究の立案、実施の指導を行う 国内・海外学会での学会発表、論文作成の指導を行う 	
臨床 研究	これまで 行ってきた 研究と実績	<ul style="list-style-type: none"> ・Kawaguchi T, et al: Clinical course of patients with Behçet's uveitis following discontinuation of infliximab therapy. Jpn J Ophthalmol. 2014 ・Tanaka Y, et al: Extreme Thinning or Loss of Inner Neural Retina Along the Staphyloma Edge in Eyes With Pathologic Am J Ophthalmol. 2015 ・Kato Y, et al: Association of Retinal Artery and Other Inner Retinal Structures With Distribution of Tapetal-like Reflex in Oguchi's Disease. Invest Ophthalmol Vis Sci. 2015 ・Kato Y, et al: Parafoveal Photoreceptor Abnormalities in Asymptomatic Patients With RP1L1 Mutations in Families With Occult Macular Dystrophy. Invest Ophthalmol Vis Sci. 2017 ・尾崎憲子ら: 造血器悪性疾患に合併した眼底病変に対する包括的感染症PCRの有用性. 臨眼. 2015 ・五嶋摩理ら: 抗癌剤使用例におけるチューブ留置前後の角膜所見. 臨眼. 2015 ・五嶋摩理ら: サイバーナイフ治療が有効と考えられた脈絡膜悪性黒色腫の1例. 臨眼. 2017
	今後行う 研究と 研究体制	<p>眼科手術に関する臨床研究のテーマとして、以下が挙げられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 白内障手術における結膜嚢、前房水の細菌検出率と、周術期感染対策の検討 ・ IOL度数計算式と、術後屈折誤差との因果関係の解析 ・ トーリックIOLの位置決め方法と、術後軸ずれの検討 ・ 抗がん剤による涙道閉鎖と術中所見、術後成績に関する臨床研究 ・ 硝子体手術により採取した硝子体液における、各種サイトカインと疾患との相関関係* ・ 眼内炎症性疾患と硝子体手術に関する臨床的研究* ・ 強度近視眼に合併する網膜分離、網膜剥離に対する硝子体手術に関する臨床研究* * サイトカイン測定など、実験室での解析が必要である場合、東京医科歯科大学眼科学教室との共同研究とする
研修項目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眼科診療全般(外来診療、病棟患者管理、手術執刀)について、主治医として診療に従事する ・ 眼科専門医相当の臨床レベルを意識し、学問的知識、眼所見観察能力、手術手技を高いレベルで習得する ・ 白内障手術: 基本手技を習得し20分未満で完遂できること、段階を踏んで散瞳不良例・チン氏帯脆弱例・核が硬い症例などの難症例を執刀する ・ 白内障術中合併症の対応: 様々な合併症について理解し、ウェットラボでのトレーニングを踏まえ、実際の手術時でも冷静に対応できる手術手技を習得する ・ 眼内レンズ縫着術、網膜硝子体手術の助手・執刀を経験し、より専門的な眼科手術医としての技術を習得する ・ カンファレンスでは症例提示と術式のプランニングを説明し、起こり得る合併症と対応方法、術後の経過観察のポイントを理解する ・ 日常診療から得られたデータをもとに臨床研究を立案し、実施する ・ 臨床研究の成果を学会で発表し、論文を執筆する ・ レジデントの指導を行う 	
研修内容・達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 白内障手術: 年間200件、フェローコースを通して400件、合併症対策を含め、独り立ちできること ・ 眼内レンズ縫着術: 2年間を通して10件程度(確実に手術を完遂できる技術を習得することが目標) ・ 網膜硝子体手術: 年間25件、2年間を通して50件程度、能力に応じて多数執刀も可能である ・ 眼瞼: 涙道疾患: 都内の大学病院レベルでも経験が難しい涙道手術について研修ができ、涙道チューブ挿入術、涙囊鼻腔吻合術の習得が可能である ・ 学会発表: 年間1~2件、2年間を通して3件以上 ・ 論文執筆: 2年間を通して、2編以上 ・ コース履修中に、日本眼科学会専門医資格を取得すること ・ 日本眼科学会がガイドラインを制定している、水晶体拡張リング(CTR)実施医の資格を取得すること 	
コース内容に関する 問合せ	川口 龍史 (東京都立駒込病院 眼科医長) TEL:03-3823-2101(代表)	